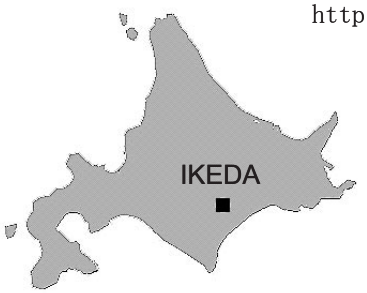
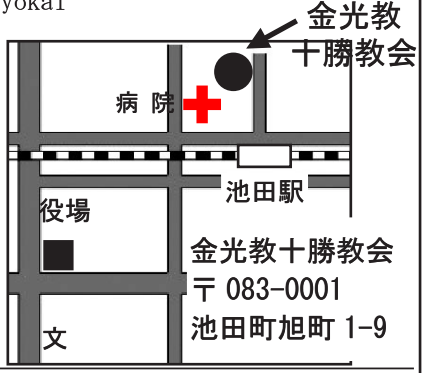
No.53　2012, Apr.　　4 月・春大祭号

http://city.hokkai.or.jp/~mtamaki/kyokai



十勝教会だより53



☎　015-572-2322
fax　015-572-4213

金光教十勝教会
〒 083-0001
池田町旭町 1-9

天地金乃神大祭を迎えて

天地金乃神様の信心を

金光教十勝教会

御神伝（明治六年十月十日）

天地金乃神と申すことは、天地の間（あい）に氏子おっておかげを知らず、神仏の宮寺社、氏子の家宅、みな金神の地所、そのわけ知らず、方角日柄ばかり見て無礼いたし、前々の巡り合わせで難を受け。氏子信心いたしておかげ受け。今般、天地乃神より生神金光大神差し向け、願う氏子におかげを授け、理解申して聞かせ、末々まで繁盛いたすこと、氏子ありての神、神ありての氏子、上下立つようにいたし候。

右に挙げたのは明治六年に天地金乃神様が教祖様にお伝えになった「御神伝（ごしんでん）」と呼ばれる文言です。

さて、金光教が誕生し百五十年以上、この「御神伝」が伝えられてから一世紀以上経ちましたが、天地金乃神様が仰った「天地の間に氏子おっておかげを知らず」という状況はどうなったでしょうか。

○

天地の働きの中に生かされる人間でありながら、その人間がそれぞれ自分勝手に振る舞い、結果、人自らが難儀を生み出し、人自ら難儀を蒙（こうむ）る姿を見かねた天地金乃神様が、教祖様に、人々に天地の働きの中で生きる人としての「本来の生き方」を「理解申して聞かせ」るように願われたのが金光教のはじまりです。

立教当初は備中（岡山）の一地方の小さな信仰集団でしたが、時を経るにつれそれは全国に広がり、一時は数十万人の信奉者を抱える

教団にまで成長しました。

ということは、「天地の間に氏子おってのおかげを知らず」という人間の本来の過ちを知り、「天地に生きる本来の人としての生き方」に気付いた人が最盛期には数十万人はいたということになります。

一時代でその数ですから、現在までには数百万人の人々が「天地に生きる本来の人としての生き方」を進めているはずです。これだけの人が金光教の信心を進めて来たわけですから、ひいき目に見れば当然「天地の間に氏子おってのおかげを知らず」という状況は少しは改善されたはずです。

○

しかし、そうはなっていないのが現実でしょう。変わらないないどころか、「天地の間に氏子おってのおかげを知らず」という状態がますますひどくなっているのが現状ではないでしょうか。

立教聖場・教祖様の御広前です（復元）

「便利・快適」と「浪費」、「楽」と「犠牲」、「個人」と「利己」これらは常に表裏一体のものですが、テレビや新聞に溢れるものはこれらのキーワードで説明される事件や問題ばかりです。いずれも天地や社会、人との関わりの中に生きているにもかかわらず、人間だけで、あるいは自分だけで生きているような振る舞いが生み出した問題です。

信心する人がたくさんいるにもかかわらずなぜそうなってしまうのか、どうも原因の一つは、私たちが「信心」というものを間違えてはいないにしろ偏って捉えていることが有るように思われます。

○

「御神伝」の中には「願う氏子におかげを授け」という文言があります。私たちが「何か願い事を神様にお願いすると、神様が応えてくれる」、いわゆる「困ったときの神頼み」であり、一般に、なぜ信心をするのかと問われれば「いいことがあるから」と答えることが多いのではない

でしょうか。何よりも、「信心すれば自分の願いが叶う」ということは、信心の大きな動機であり、仮に願いが叶ったとすると「おかげ（御利益）」を実感しやすいのも事実です。

○

しかし本来、天地金乃神様が教祖様へ御取次をするように願われたのは「**天地の間に氏子おっておかげを知らず**」という状況を改めさせるためであります。

すなわち金光教の信心は「天地の間に生きる神の氏子としての生き方」を求め進めるものであるのです。

しかしここでいう「おかげ」とは先ほどの「おかげ」とは異なり「実感しづらいおかげ」であります。空気、水、太陽や月の運行のように太古から続きあるいは蓄積されてきた天地の働きをはじめ、私たちが普段何気なく生活できるそこには、それを支える目に見えない様々な働きがあります。それこそ大事な「おかげ」なのですが、そういうものは言われてみれば「そうかもしれない」と思う程度で普段は気に掛けることもありません。ですから、私たちはそれら目に見えない働きに気付かず、結果、天地の働きを無視した行いや、自分を支えてくれる人や仕組みがあることを忘れた振る舞いに陥ってしまい、様々な問題を引き起こすことになるのです。

その私たちを支える目に見えない働きに感謝をしながら日々の生活を送れるようにするのが金光教の信心です。

○

「願う氏子におかげを授け」は氏子の願いをかなえる信心ですが、金光教の信心の大きな部分は「天地の間に氏子おっておかげを知らず」に始まる神の願いをかなえる信心であります。神様は氏子の願いを聞き届けてくれますが、私たちは神様の願いを本当に受けているのでしょうか。教祖様がお伝えになった信心とは本当はなんであったのか、この御大祭を機にみなで考えてみませんか。

関係教会大祭日程

	春	秋
釧路教会	5月27日	10月21日
北見教会	5月3日	11月3日
帯広教会	4月22日	11月11日
網走教会	5月20日	10月14日
滝上教会	6月10日	10月7日
夕張教会	4月29日	11月3日
函館教会	5月13日	11月13日

旭川教会布教110年記念祭　5月13日
帯広教会布教90年記念祭　11月11日

教会日誌

平成24年1月1日から4月8日まで

1月1日　元日祭

1月3日　士幌町、K家、T家新年感謝祭。

1月3日　池田町、M家、新年感謝祭。

1月5日　薫別講社年頭月例祭。

1月14日　帯広市、K家、A田家、M家合同新年感謝祭。

1月21日　札幌市、Y家、新年感謝祭。

1月26日　札幌市、T家、I社、A社、B社合同新年感謝祭、交通安全祈願祭。

1月28日　北海道教区信徒会委員総会、札幌市、信徒会副会長出席、29日まで。

1月29日　帯広市、M家、式年霊祭。

2月9日　函館教会葬儀式、衛先生祭員御用、10日まで。

写真　元日祭
祭典の後、参拝者にはお屠蘇と御神水が振る舞われました。

2月11日　信徒会総会、教会新年会
2月12日　余市町、I家、式年霊祭。
2月14日　池田町、W家葬儀式、会葬参拝。
3月20日　春季霊祭。
3月24日　道東地区教会連合会総会、阿寒湖、信徒会長、副会長、衛先生出席。
3月26日　北海道教区教会女性の会総会、札幌市、みよ子先生出席、27日まで。
4月1日　勧学祭。
4月3日　函館教会月例祭、衛先生、みよ子先生参拝。
4月5日　薫別講社天地金乃神大祭。
4月8日　大祭前大掃除、大祭打合せ

写真　春季霊祭
祭典後はぼたもちでお直会

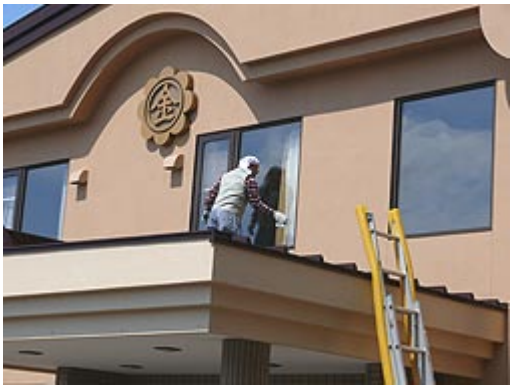
写真　薫別講社大祭
（上は薫別講社御神前）
薫別講社も大譽地講社時代から 93 年目に入りますが、今も陸別、大譽地の信者さんたちが守り続けています。

写真　勧学祭
今年も多くの青少年がそれぞれに新しい門出を迎えました。

写真 - 信徒総会・教会新年会

信徒会総会では今年一年の活動内容の他、十勝教会が当番になっている道東地区の家族キャンプなどの確認がなされました。総会後の新年会では、東日本大震災で被災した気仙沼の復興地酒が振る舞われたほか、恒例のビンゴ大会を楽しみました。

写真 - 大祭前大掃除　大祭打合せ（次頁も）



十勝教会祭典と行事

上半期感謝祭	6 月 30 日（土）
教会創立記念祭	8 月 16 日（木）
秋　季　霊　祭	9 月 22 日（祝）
秋・大祭	11 月 18 日（日）
越　年　祭	12 月 31 日(月)
境内清掃	6 月 3 日（日）
境内清掃	7 月 22 日（日）
大祭前大掃除	11 月 10 日(土)

道東地区教会連合会の行事

交流パークゴルフ大会　6 月 16 日（土）
　　会場　札内近辺（当番・帯広教会）
道東地区教会連合会研修会　6 月 17 日（日）
　　会場　帯広教会
道東地区信徒交流会（共励会）7 月 14 日（土）
　　会場　十勝教会（当番・十勝教会）
道東地区家族キャンプ　7 月 14 日（土）～
　　会場　池田町まきばの家キャンプ場
　　※ 14 日 17 時～ 15 日午前中